

文教福祉常任委員会委員長（小川義昭君） おはようございます。

それでは、文教福祉常任委員会の行政視察報告を申し上げます。

当委員会は、去る7月2日から7月4日にかけて、東京都三鷹市、埼玉県朝霞市にある社会福祉法人どろんこ会・朝霞どろんこ保育園及び千葉県松戸市を視察研修してまいりました。

まず初めに、三鷹市におけるコミュニティ・スクールについてであります。

三鷹市では平成18年からコミュニティ・スクールを導入して、現在は市内全小・中学校で導入しております。三鷹市におけるコミュニティ・スクールとは、保護者や地域の方々が、学校運営への参画や、授業や学校行事などの教育活動への参画による地域全体でともに子供を育てる学校づくりを進める仕組みであります。

なお、授業や放課後活動の支援、学校行事の補助などに参加したボランティアは、昨年度の実績で延べ1万6,000人を超える参加があり、地域の理解が進んでおります。

また、三鷹市では小・中一貫教育を市内全ての学校で行っております。特色としては、義務教育の9年間の教育を既存の小学校、中学校で行い、系統性や連続性を重視した小・中一貫カリキュラムに基づいた教育を推進し、確かな学力の向上を目指して授業力を高める活動をされていきました。さらに、地域の意向が反映できるようにコミュニティ・スクール委員会を設置して、小・中一貫教育に対しても参画しております。このことにより、学力が向上し、不登校出現率が東京都内で最小値を維持されております。

このように、コミュニティ・スクールをもとに多くの保護者や地域の方々が学校運営や教育活動にかかわることで、子供たちに思いやりの心、豊かな人間性が育まれます。また、地域の方々にも、学校における教育現場の実情も理解して、保護者、地域と学校の連携が強化される施策であると思います。

次に、朝霞どろんこ保育園の「にんげん力」を育てる保育についてであります。

朝霞どろんこ保育園は、現在の理事長である安永氏が長男を民間の託児所に預けていたときに、母として日本の保育現場の体質に疑問を抱き、民間企業を退社して安永氏みずから平成19年に認可保育所の朝霞どろんこ保育園を開設しました。

当園の最大の特徴は、どろんこ遊びや農作業などで土との触れ合いや地域の方々に積極的にかかわることで、生きる力、すなわち「にんげん力」を育むことを理念とし、具体的に実践されています。

農作業では、農地を借りて毎月季節に応じた野菜の種や苗を植えて、毎日の日課として水やりや草むしりなどを行い、収穫して給食に使用しています。こ

のような徹底した土との触れ合い体験を通して、子供たちは食の大切さや命について学んでいます。

また、園内外を問わず、すれ違った全ての人と挨拶を交わすことを約束とすることや、週1回、商店街ツアーと称し、地域の施設や商店を訪問し、多くの人と交流してコミュニケーション力を育んでいます。

子供の命と健康を守る保育において、身体機能の未熟な幼児の特性を踏まえ、多数の感染症などに対する適切な衛生管理が求められています。しかし、幼児期は子供が生涯にわたる人間形成の基礎を培う極めて重要な時期であり、健康や安全面に配慮しつつも、生きる力をつけるためにさまざまな経験と機会を排除し過ぎない保育が必要だと思いました。

次に、松戸市の地域包括ケアシステムについてであります。

松戸市の地域包括ケアシステムは、ニーズに応じた住宅が提供されることを基本とした上で、生活上の安全・安心・健康を確保するために、医療や介護のみならず、福祉サービスを含めたさまざまな生活支援サービスが日常生活の場で適切に提供できるような地域での体制と定義されています。

これからの高齢者人口と要介護高齢者の増加に対応するために、平成25年度に地域包括ケアシステムの核となる地域包括支援センターをこれまでの3カ所から11カ所に増設して、より地域に密着し、かつ専門性の高い活動を行っており、その結果、平成25年度の相談件数は前年度と比較して2倍に増加しました。

また、松戸市の特徴としては、医師会が主体となって医師や介護事業者など多職種連携合同研修会を開催し、在宅生活への支援体制についてグループ討議などを行い、連携を深めています。また、地域での見守りや声かけは、民生委員児童委員や地区社会福祉協議会のみならず、認知症サポーターや配食サービス事業者、さらには市民みずからが設立した孤独死予防センターなど、多くの方々が連携して取り組んでおります。

今後、高齢者のみ世帯や認知症高齢者の数が増加し、緊急時のみではなく、日常的に地域全体で支援する体制が重要になってきます。そのためには、地域包括ケアシステムを構築して、医療・介護・地域等が連携して重層的に支援することが必要になってきます。本市においても、関係機関との連携を深めることや、市民みずからがともに助け合える意識を醸成する取り組みが必要だと思いました。

以上、大まかに行政視察の報告を申し上げますが、詳細な資料については事務局に保管してありますので、御一読いただきますようお願い申し上げ、文教福祉常任委員会の行政視察報告を終わります。